

1. 8月調査の概要と概況

【8月の概要】

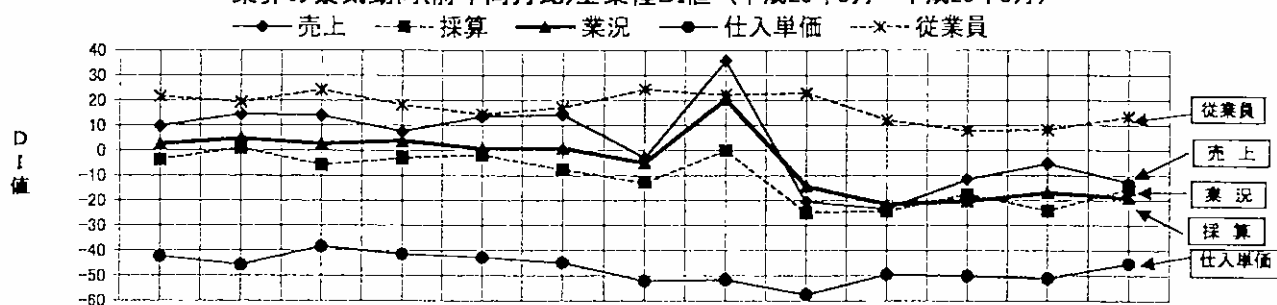
回復基調を継続するも動きは鈍い、先行き期待感はやや改善

7月に比べると、従業員D Iでプラス幅が拡大し、採算・仕入単価のD I値はマイナス幅を縮小したが、売上D Iと業況D Iではマイナス幅が拡大した。景況は回復基調を継続しているものの停滞感がでている。

また、依然として、原材料・燃料の高騰を訴える先が多く、価格転嫁できない事業所は厳しい状況が続いている。なお、建設業・サービス業を中心に人手不足を訴える先が目立っているが、専門職や非正規従業員の確保が困難となっている。

先行きについては、7月に比べると若干ではあるが全てのD I値で上昇しており、やや回復期待が膨らんでいる。

業界の景気動向(前年同月比)全業種D I値 (平成25年8月～平成26年8月)



	H25年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	H26年 8月
売上	9.9	14.6	14.0	7.7	13.6	14.3	▲ 2.9	35.9	▲ 20.4	▲ 23.4	▲ 11.4	▲ 5.2	▲ 12.6
採算	▲ 3.6	1.0	▲ 5.6	▲ 2.9	▲ 1.8	▲ 7.6	▲ 12.8	0.0	▲ 24.8	▲ 24.3	▲ 17.5	▲ 24.0	▲ 15.3
業況	2.7	4.9	2.8	3.9	0.9	1.0	▲ 4.9	20.4	▲ 14.2	▲ 21.5	▲ 20.2	▲ 16.7	▲ 18.9
仕入単価	▲ 42.3	▲ 45.6	▲ 38.3	▲ 41.4	▲ 42.7	▲ 44.8	▲ 52.0	▲ 51.5	▲ 57.5	▲ 49.5	▲ 50.0	▲ 51.0	▲ 45.1
従業員	21.6	19.4	24.3	18.3	14.6	17.1	24.5	22.3	23.0	12.2	7.9	8.3	13.5

D I(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

1. 調査概況報告

【全産業平均D I】

全産業の前年同月比では、7月に比べ従業員D Iで5.2ポイント上昇し、採算D Iで8.7ポイント、仕入単価D Iで5.9ポイントマイナス幅を縮小したが、売上D Iで7.4ポイント、業況D Iで2.2ポイントそれぞれマイナス幅が拡大した。

先行きは、採算D Iで5.8ポイント、業況D Iで5.2ポイントマイナス幅を縮小するなど全てのD I値で上昇を示し、先月よりはやや回復期待が窺えるものとなった。

【業種別D I】

建設業は前年同月比で7月に比べ売上D Iで12.1ポイント、採算D Iで22.2ポイント、業況D Iで32.4ポイントそれぞれ下降した。一方、仕入単価D Iではマイナス幅を6.5ポイント縮小し、従業員D Iではプラス幅が拡大した。先行きは、売上D Iで15.7ポイント下降しマイナスに転ずるなど、全てのD I値で下降した。

製造業は前年同月比で7月に比べ業況D Iでややマイナス幅が拡大したが、採算D Iと仕入単価D Iでそれぞれ19.0ポイントマイナス幅を縮小し、従業員D Iではプラス幅を拡大した。先行きは、売上D Iで14.3ポイント、採算D Iで4.8ポイント下降したが、仕入れ単価D Iと業況D Iではマイナス幅を縮小した。

卸売業は前年同月比で7月に比べ、売上D Iと仕入単価D Iでマイナス幅を拡大したが、採算D I・従業員D I・業況D Iでは上昇した。先行きは、仕入単価D Iでほぼ横ばいだった他は売上D Iで31.6ポイント、業況D Iで23.9ポイントマイナス幅を縮小した。

小売業は前年同月比で7月に比べ、各D I値で若干の増減はあるもののほぼ横ばいで前月に引き続き低水準にある。

先行きは、業況D Iで9.1ポイント下降したものの売上D Iで9.1ポイント上昇しマイナス域から脱したほか、採算・仕入単価・従業員の各D Iでも上昇した。

サービス業は前年同月比で7月に比べ、業況D Iでマイナス幅をやや拡大し従業員D Iでも若干下降したが、採算・仕入単価の各D Iでマイナス幅を縮小した。先行きは、従業員D Iでプラス幅を縮小したが、採算D Iで7.1ポイント上昇しマイナス域から脱したほか、売上D I・業況D Iでもプラス幅を拡大した。

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	
7月	1.0	▲ 9.4	▲ 33.3	13.5	▲ 5.2
8月	2.7				0.0

①	②	①	②
11.1	27.8	27.8	22.2
18.2	22.7	▲ 4.6	9.1

	売上(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員		業況	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
7月	▲ 4.8	19.1	▲ 33.3	0.0	▲ 57.1	▲ 33.3	4.8	9.5	▲ 23.8	▲ 14.3
8月	▲ 4.8	4.8	▲ 14.3	▲ 4.8	▲ 38.1	▲ 28.6	9.5	9.5	▲ 28.6	▲ 4.8

	売上(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員		業況
	①	②	①	②	①	②	①	②	
7月	▲ 5.3	▲ 31.6	▲ 42.1	▲ 42.1	▲ 47.4	▲ 31.6	▲ 10.5	▲ 15.8	
8月	▲ 31.8	0.0	▲ 31.8	▲ 18.2	▲ 50.0	▲ 31.8	4.6	0.0	

	売上(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員		業況
	①	②	①	②					
7月	▲ 60.0	0.0	▲ 60.0	▲ 10.0					
8月	▲ 63.6	9.1	▲ 54.6	▲ 9.1					

業況

3. 業界から寄せられた主なコメント

平成26年8月

建設業	設備工事	公共工事の縮減傾向、消費税の影響による民間工事の落ち込みが表面化しており、厳しい状況を想定しなければならない。
	左官工事	増税後仕事が少なく苦戦、その後やや持ち直してきました。今後はある程度持ち直すのではないかと思います。来年の10%消費税は厳しいのではないかと思います。
	土木工事	東日本を中心に民間建築は好調。官庁土木は下半期の受注量が課題。人手不足は継続課題。
製造業	機械	業界では、内需は全体的に回復傾向が継続している。外需も引き続き中国の電気機械向けスポット受注が見られるほか、堅調さが継続している。
	建設用金属製品	政府の経済対策、インフラ整備、震災復興、五輪特需等で足元では旺盛な需要で多忙である。年末年始にかけて一層の需要増が予測される。しかしながら、首都圏と地方の格差は拡大している。特に新潟経済の先行きに不透明感がある。
	プラスチック製品	原油高騰による原料高と電気料アップ、これに伴う価格転嫁ができていない状況。
卸売業	医薬品	仕入価格の上昇、販売価格の据え置きで厳しい状況が続いている。
	洋紙	消費税増税後の4月、5月、6月、7月、と非常に厳しい状況が続いています。当社の業界は全国的にほぼ同じ状況。
小売業	スーパー	例年8月は売上・採算的に良い月なれど、本年は色々の施策により、かろうじて売上100%をキープできる見通し。円安による輸入品価格の上昇と光熱費・運搬費、販促費のアップにより採算の悪化が懸念されます。
	家具・建具・じゅう器	4月～7月は、前年比2桁割れが続き、8月はせめて前年並と見込んだが、依然として低調、累計でも前年割れが確定的となる。今後も見通し難となる。
	自動車	消費増税前の駆け込み需要のあった昨年に比べ、受注ベースで大きく劣っている。今後の売上も当面厳しい状況が予想される。
サービス業	ソフトウェア	①システム開発下請け部門では、東京地区ソフト会社からの派遣依頼が先月より活発になっている。②自社製品（金属加工業向け生産管理システム）の販売は、ものづくり補助金制度を使った顧客からの受注が目立っている。
	タクシー	依然として、人手不足なかでもドライバー不足は深刻な状況となっている。また、燃料高騰で収支悪化が慢性的になっている。
	飲食	4月の増税で昨対ダウン。それがまだ回復していない現状に、8月は天候不順でダブルパンチとなった。